

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目

メッセージ 11

選びの器は神を内容とし、有機的に神に結合されて、
神の有機体となり、人性において神を表現する

聖書：創2:7. 箴20:27. Iテサロニケ5:23. ローマ9:21, 23. 使徒9:15.

II コリント4:6-7

I. 神が彼の永遠のエコノミーを完成するための手続きの第一段階は、人を器として創造して、命としての神を内容とすることです。「エホバ・神は土のちりで人を形づくり、その鼻の中に命の息を吹き込まれた。すると人は生きた魂となった」——創2:7:

A. 神は三一であり、彼は人を彼のかたちに造り、「霊と魂と体」の三部分から成る人とししました。——Iテサロニケ5:23:

1. 神は人の体を土のちりで形づくられました。それは、人が外側の表現として、また物質のものと接触する器官として体を持つためでした。わたしたちの外側の部分としての体は、外なる器官であり、この世の意識があり、わたしたちを物質の世界に触れさせます。
2. 神は人の鼻に命の息を吹き入れました。それは人が神を受け入れる器としての霊を持ち、人が神と接触し、神を内容とし、神を実体化する器官としての霊を持つためです。わたしたちの内側の深い部分にある霊は、内側の器官であり、神の意識を所有し、わたしたちが神と接触するようにさせます——ヨハネ4:24. ローマ1:9.
3. 人のパーソン、自己そのものである人の魂（出1:5. 使徒2:41. 参照、マタイ16:26. ルカ9:25）は、ある要素から形づくられたのではなく、人の霊と人の体の結合によって生み出されました。人の思い、感情、意志から成る魂は、心理的領域に接触するための心理的意識を持っています。魂は、わたしたちの霊と体の間にあり、自己の感覚を持っており、わたしたちに人格を持たせます。
4. 霊の中には、その霊としての神が住まわれ、魂の中には、わたしたちの自己が住み、体の中には、物質の感覚があります。神は、神の全体的な救いにおいて、再生を通してわたしたちの霊を所有します（ヨハネ1:12-13. 3:5-6. ローマ8:10）。彼は命を与える霊としてのご自身を、わたしたちの霊から魂へと拡大し、魂に浸透し、

魂を造り変えます（ローマ12:2. II コリント3:18）。彼はわたしたちの魂を通して、わたしたちの死ぬべき体を生かし（ローマ8:6, 11, 13）、彼の命の力でそれを変貌させます（ピリピ3:21. II コリント5:4）。

5. わたしたちは、神を受け入れる霊と、神を生かし出し表現する魂とを持っています。人を創造することでの神の意図は、人が神を取り入れて神を表現することでした。神を取り入れ神を表現することは、人の喜びと娯楽であるべきです。

6. 人の幸いと楽しみは、神ご自身でなければなりません。これは客観的な神ではなく、主観的で経験的で享受することができる神です。神を取り入れ神を生かし出すことが、人の喜びです。

B. 三一の神は、このような三部分から成る人を創造し、生ける器としました。それによって人は神を内容とし、有機的に神に結合される度量を持ち（ヨハネ15:4-5. ローマ11:17-24）、彼の有機体となり、人性において彼の表現となります。

II. ヘブル語で創世記第2章7節の「息」という言葉は、「ネシャマー (neshamah)」です。この言葉は、箴言第20章27節では「霊」と訳されています。これが意味しているのは、創世記第2章7節における息が、人の霊であり、この霊は主のともし火です。「人の霊はエホバのともし火であり、内なる存在の最も深い部分をすべて探る」——箴20:27:

A. 油としての神が入って来てわたしたちのともし火をともし時、わたしたちは照らされ、探られ、力づけられます。「あなたはわたしのともし火をともしられます。エホバ・わたしの神はわたしの暗やみを照らされます。まことに、あなたによって、わたしは軍勢に襲いかかることができ、わたしの神によって、城壁を飛び越えることができます」——詩18:28-29. II テモテ1:6-7。

B. 燭台としての召会には七つのともし火があり、それは神の七つの霊、すなわち、七倍に強化された霊です（啓4:5）。また、わたしたちの霊は、主のともし火です（箴20:27）:

1. わたしたちは内側に二つのともし火、すなわち神の霊とわたしたちの人の霊を持っています。わたしたちの人の霊の内側には、さらに強く、さらに大いなる、七倍に強化されたともし火があります。燭台の機能は、輝くことです。

2. わたしたちが救われる前、わたしたちの霊は壊れたともし火でした。わたしたちが悔い改め、主の中へと信じ、主を受け入れた後、ともし火は回復され、光を放ち始めました。これら二つのともし火

のゆえに、わたしたちの内側にはとても多くの輝きがあります。この二つは一になります。なぜなら、「主に結合される者は、主と一つ霊に」なるからです——Ⅰコリント6:17。

3. わたしたちは、造り変えられるために、魂のすべての部屋（思い、感情、意志）を完全に主に開いていなければなりません。そうすれば、わたしたちの内側にある、この二重のともし火は、完全な自由を持ち、二重の輝きをもってわたしたちの内なる存在の最も内なる部分すべてを探ります——詩139:23-24。

4. 最も多く造り変えを経験する人は、主に完全に開いている人です。わたしたちはこのように祈るべきです、「主よ、わたしは完全にあなたに開いています。わたしはあなたに開き続けていきたいのです。わたしの全存在、すなわち、わたしの心、思い、意志、感情は開いています。照らし続けてください。徹底的にわたしを探ってください。わたしを照らし、生かしてください。わたしはそれを完全に受け入れます」。このようにして、命の光は、わたしたちに供給されて、わたしたちを命の人とならせ、命の都、すなわち、新エルサレムとなさせます——ローマ8:2, 10, 6, 11. 啓22:1-2, 5。

C. 人の霊は神によって特別に形づくられました。人は全宇宙の中心であり、人の中心は人の霊です——ゼカリヤ12:1. ヨブ32:8。

D. 人の霊は、神の霊が働く場所であり（ローマ8:16）、霊としての主がとどまる場所です（Ⅱコリント3:17. Ⅱテモテ4:22）。

Ⅲ. **パウロは、わたしたちは選ばれて、あわれみの器、尊い器、栄光の器となったことを告げています——ローマ9:21, 23. 参照、使徒9:15:**

A. 聖書全体の基本的な教えは、ただこのことにほかならないのです。すなわち、神は内容そのものであり、わたしたちはこの内容を受け入れるために造られた容器であるということです。わたしたちは神を入れ、神で満たされなければなりません。もしわたしたちが神を入れず、内容である神を知らないなら、わたしたちは無意味な矛盾した者なのです。

B. 神は、誉れの神である彼を内容とする器としてわたしたちを創造され、誉れの器としました（ローマ9:21）。彼はまた、わたしたちの上に彼の栄光を知らせ、わたしたちを彼の栄光の器となさせます（23節）。このすべては、神のあわれみから出たものであり、また神のあわれみにしたがっています。それは、わたしたちの努力によって得られることはできません。こういうわけで、わたしたちは彼を礼拝しなければならず、彼のあわれみのゆえに彼を礼拝しなければなら

りません（詩歌23と22）！

C. あわれみと慈愛は有機的であって分けられることができません。しかし、それらはさらに特定の意味において区別されます。前者は、わたしたちのあわれむべき状態によって動機づけられた神の外側の行ないを指し、後者は、彼の愛する本質に起因する彼の内側の愛情を指しています：

1. ルカによる福音書第1章78節から79節は言います、「『わたしは自分があわれもうとする者をあわれみ、慈しもうとする者を慈しむ』。ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることに由来のでもなく、神があわれみを示されることによるのです」。
2. ローマ人への手紙第9章15節から16節は言います、「『わたしは自分があわれもうとする者をあわれみ、慈しもうとする者を慈しむ』。ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることに由来のでもなく、神があわれみを示されることによるのです」。
3. エレミヤは言います、「わたしはこれを心に思い起こす。それゆえ、わたしは望みを持つ。わたしたちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。それらは朝ごとに新しい。『あなたの信実は大偉です。エホバはわたしの分け前です』とわたしの魂は言う。それゆえ、わたしは彼を待ち望む」——哀3:21-24：
 - a. イスラエルの民は失敗しましたが、神のあわれみはイスラエルの残された者 [レムナント] を守り、神のエコノミーを完成するようになりました。
 - b. エホバの慈愛は朝ごとに新しい、とエレミヤが言うことは、エレミヤが思いやりのある方である主と朝ごとに接触することを示しています。エレミヤは、主との接触を通して、神の慈愛、いつくしみ、信実に関するこの言葉を受けました。エレミヤは、わたしたちが朝ごとに主と接触し、主に完全な望みを置き、主を待ち望み、主の御名を呼び求める必要があることを認識しました。——22-25節, 55-56。

IV. コリント人への第二の手紙第4章6節は言います、「なぜなら、『暗やみから光が照りいでよ』と言われた神は、わたしたちの心の中を照らして、イエス・キリストの御顔にある神の栄光の知識を、輝かせてくださったからです」。7節は続けてこのように言います、「しかし、わたしたちはこの宝を土の器の中に持っています。それは、この卓越した力が神のものであって、わたしたちからではないことが現れるため

す」:

- A. 7節の「この宝」は、6節の「イエス・キリストの御顔」を示しています。ギリシャ語で「御顔」という言葉は、コリント人への第二の手紙第2章10節の「パースン」と同じ言葉です。
- B. 「御顔」というこの言葉は、目の周りの部分、すなわち、内側の考えと感情の指標としての目つきを指しています。それは、そのパースン全体を明らかに示し、現します。これが示しているのは、使徒がキリストの目の中に表現された彼のパースン全体の表示にしたがって、キリストの臨在の中で生活し行動したということです。
- C. パウロは、主の目の表示（キリストの臨在）にしたがって行動したので、キリストを生き、最も近く、最も親密にキリストと接触した人でした。
- D. 全宇宙の中で、イエスの御顔を見つめることほど尊いことはありません。わたしたちは、彼の臨在の中を生きれば生きるほど、ますますわたしたちに内住する宝としてのイエスの尊さの甘い感覚を持ちます——出33:11, 14, 14節のフットノート1。
- E. わたしたちは、心を主に向け続けるとき、おおいに取り除かれ、イエス・キリストの御顔の中で、主の栄光を鏡のように見つめ、反映しています。このことは、わたしたちが神で浸透されて、神をもって輝き、神を輝かし出し、他の人に神を伝達します——Ⅱコリント3:16, 18. イザヤ60:1, 5前半. ヨブ42:5 . 出34:4とフットノート 2. 出34:29とフットノート1. 箴4:18。
- F. わたしたちは、主の神聖な栄光のために、主に生きます（イザヤ43:7）。さらに、わたしたちは、栄光から栄光へと造り変えられていきます。そして、キリストはわたしたちの心の中にご自身のホームを造っています。それは真実な召会における彼の栄光のためです（Ⅱコリント3:18. 4:5-6. 5:14-15. エペソ3:16-17, 21前半）。
- G. わたしたちが神にできる最も高い生活と奉仕は、「すべて神への栄光のために行な」うことです。それは、神の団体の表現のためです——Ⅰコリント10:31. イザヤ43:7. ヨハネ7:18. 8:50前半. 17:4. ローマ11:36。